

2007年能登半島地震の臨時強震観測

Temporary strong-motion observation during the 2007 Noto Hanto earthquake sequence

前田 宜浩 [1]; 一柳 昌義 [2]; 高橋 浩晃 [3]; 本多 亮 [4]; 山口 照寛 [3]; 笠原 稔 [3]; 笹谷 努 [5]

Takahiro Maeda[1]; Masayoshi Ichiyanagi[2]; Hiroaki Takahashi[3]; Ryo Honda[4]; Teruhiro Yamaguchi[3]; Minoru Kasahara[3]; Tsutomu Sasatani[5]

[1] 北大・地震火山センター; [2] 北大・理・地震火山センター; [3] 北大・理・地震火山センター; [4] 北大・理; [5] 北大・理・地球惑星

[1] ISV, Hokkaido Univ.; [2] Institute of Seismology and Volcanology, Hokkaido Univ; [3] ISV, Hokkaido Univ; [4] ISV, Hokkaido Univ.; [5] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ.

2007年3月25日に発生した能登半島地震(Mj6.9)では、石川県七尾市、輪島市、穴水町で震度6強を観測したほか、石川県、富山県、新潟県で震度5弱を越える強い地震動を観測した。また、この地震では、死者1名を含む多数の人的被害のほか、石川県を中心に建物の倒壊など多くの住家被害も発生している。

我々は地震発生当日から震源域周辺での臨時強震観測を開始し、現在も継続中である。本観測では余震活動の詳細な調査を行うため、観測点を特定の地域に密集して設置するのではなく、余震の震源域上に分散して設置した。臨時強震観測点は、輪島市門前町総合運動公園、門前町千代、門前町浦上、門前町鋸地、輪島市三井町の5地点に展開している。各地点には加速度型強震計(ミットヨ社製JEP-6A3)を設置し、データロガー(白山工業製LS7000-XT)に100Hzサンプリングで連続データを収録している。観測記録は現地収録のため頻繁に回収することは困難であるものの、現在までに収集したデータはホームページ上(<http://hkdrcep.sci.hokudai.ac.jp/download/>)で公開している。

定常観測点で得られた本震と余震の強震記録を用いて、経験的グリーン関数法により震源モデルを推定した結果と、その震源モデルを用いて推定した臨時観測点での本震時の強震動について発表する。

謝辞: K-NET, KiK-net, F-netのデータを使用しました。観測点の設置に際しては、輪島市門前支所災害対策本部、輪島市門前町つるぎ保育所、輪島市立三井小学校に御協力頂きました。感謝致します。